

1. 文学部

(1) 文学部の教育目的と特徴	1-2
(2) 「教育の水準」の分析	1-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	1-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	1-16
【参考】データ分析集 指標一覧	1-19

(1) 文学部の教育目的と特徴

1. 文学部では「人間とは何か」という根源的な問いに、人文学の様々な分野から総合的にアプローチすることを目的としている。そのために人間が長い歴史を通じて築き上げてきた豊かな知的遺産に学び、それを現代社会に生かすという課題に取り組むとともに、多様な学問領域との協力・連携を積極的に推し進める。これは岡山大学第3期中期目標の「大学の基本的な目標」である、「高度な知の創成と的確な知の継承」と「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に寄与するものである。
2. この目的を実現するため、文学部では、2016年度以降は従来のコース制を廃止して計8つの分野を新設し、豊かなリベラル・アーツと先端的な人文科学とを総合した、新しい人文学教育をめざしている。この分野制により、普遍的な人文知を目指す諸分野と、現代的諸問題に対応するフィールド系・行動科学系・言語科学系などに属する諸分野との学際的な連携がより加速することとなる。これは上記中期目標の「教育研究等の質の向上に関する目標」である、「高い見識を備え、社会において指導的な役割を担い得る人材の育成を目標とし、学士教育では、学生の資質を活かし、社会からの要請に即した教育を推進する」という内容に応えるものである。
3. 具体的な教育方法・教育内容については、細部にまで行き届いた教育及び評価が可能な少人数教育のもと、ディプロマ・ポリシーに示された5つの強み（1. 教養・2. 専門性・3. 情報力・4. 行動力・5. 自己実現力）を1学年の中でバランスよく養成し、幅広い学際的な視野を得るとともに、専門分野の学びを学年進行に従って段階的に実現できるように配慮されている。導入教育から始まり、専門的な知識やスキル、論理的に思考する力や語学力などを主体的に身につける専門教育を経て、主体的・能動的な学びの集大成としての卒業論文の完成までが、一貫した体系的なカリキュラムとして構築されている。これは上記中期目標の、「学士力を着実に身に付けさせるため、教育システム改革を通じて、効果的な教育方法・教育内容を充実させる」にも合致している。
4. 文学部ではシラバスやオリエンテーション、授業時の説明によって、学習目標と成績評価の関連性を明確にするとともに、成績評価に際しては、評価の厳格性、透明性を高めるように努めている。これにより、いわゆる出口管理についても、社会に貢献できる人材を、より多く育成することを目指している。このことは上記中期目標の、「ディプロマ・ポリシーで明らかにした学生が身に付けるべき学習成果を適切に評価し、成績評価等の客観性、厳格性、国際通用性を担保することにより、教育の質を保証する」及び「グローバル実践人を育成し、高度実践人を輩出する」に対応している。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 6401-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 6401-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 6401-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 6401-i3-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文学部のディプロマ・ポリシーに示された5つの強み（1. 教養・2. 専門性・3. 情報力・4. 行動力・5. 自己実現力）を1学年の中でバランスよく、また学年進行に従って段階的に実現できるように配慮した科目群を開設し、学際的な広い視野を身につけつつ、専門分野を深く学べる体系的な教育プログラムを構築している。[3.1]
- 1年次においては、人文社会科学・自然科学・健康科学・キャリア教育・外国語など広い範囲にわたって教養や基本的な学修スキルを身につける教養教育科目（DP1）を履修し、同時に「人文学の論点」（DP1,2）を2016年度より新設し、「人文学入門演習」（DP2,3）とともに専門分野での学習・研究の導入をよりスムーズに行えるようにしている。[3.1]
- 2年次以降は、段階的に、各分野の学問の基本を体系的に学ぶ「人文学概説」

岡山大学文学部 教育活動の状況

(DP1, 2)、各分野の更に詳細な知識や情報、論理的思考力、具体的な研究方法などを実践的に学ぶ「実践演習」(DP2, 3, 4)、各分野の学術研究の最新の成果を解説する「人文学講義」(DP1, 2)、これまでの知識・情報・方法を総合し、4年間の学びの実現として卒業論文を完成させる「課題演習」(DP1, 2, 3, 4, 5)を開設している。[3.1]

- 社会課題や人材需要に応えるべく、教育職員免許状取得のための課程、学芸員課程プログラム、社会調査士や地域調査士資格の取得に向けた科目の他、2018年度からは公認心理師試験受験資格のための課程を新設している。[3.2]
- グローバル化・多文化共生・ダイバーシティなどの現代的課題に対応すべく、2017年度より、一つのテーマに即して分野横断的に履修可能な「クラスター科目群」を設定しており、学際的教育を推進している。2019年度にはクラスターエッセンス科目として「ヘルスシステム統合科学入門」、「ジェンダー研究の意義とは何か」、「老いと看取りと死の人文学Ⅰ」の3つが開講されている。[3.3]
- 1年次では教養教育科目を通じて幅広い教養を身につけることを目指しているが、同時に文学部導入科目群により、教養教育と結びつけながら人文学の基本的な知識やトピック、研究方法について学ぶことで、教養教育と専門教育とを有機的に関連づける配慮がなされている。[3.4]
- 2016年度より、従来の「人文学の基礎」をより充実させて、人文学に固有の研究手法・内容について導入を行う「人文学の基礎 A」と人文学に関わる1冊の本を受講者全員が読むことを前提にしてインテンシブな講義を行う「人文学の基礎 B」に拡充し、1年次1～2学期に開講している。[3.4]
- 文学部の専門教育において重要な演習形式の授業へと導入するための「人文学入門演習」については従来1科目のみ履修可能であったのを2016年度より複数履修できるように改善し、1年次3～4学期に開講している。[3.4]
- 2016年度より、各分野の教員が、それぞれの専門の観点から人文学のトピックを1つ取り上げ、学生を人文知のエッセンスに触れさせると同時に、分野選択の参考にもなる講義「人文学の論点」を新設し、1年次1～4学期に開講している。[3.4]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 6401-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 6401-i4-2）

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 6401-i4-3）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 6401-i4-4）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 各分野における基本的な素養の涵養については、「人間とは何か」という根源的な問いに、人文学の様々な分野から総合的にアプローチするという教育目標達成のため、文学部では2016年度より従来のコース制を廃し、8分野に分かれた少人数教育を実現しており、これにより幅広い学際的な視野を得るとともに、専門分野の学びを学年進行に従って段階的に修得できるようにしている。[4.1]
- 教室外学修プログラムとしては、学芸員課程プログラムにおいて、毎年20～30名程度の3～4年次生を対象に「博物館実習」を開設し、博物館における実務を体験して実践的な知識を習得できるようにしている。[4.1]
- 教室外学修プログラム及び実践的学習プログラムとしては、歴史学・考古学分野において、学外での発掘調査旅行や古文書調査旅行などを行う授業を開設し、歴史研究の現場での実践的学修を行っている。またフィールド系・行動科学系の分野では、学外でのインタビューや、国内外へのフィールドワークを授業や卒業研究に組み込み、社会の中で主体的に学ぶ実践的学修を行っている。[4.1, 4.2]
- 実践的学習プログラムとしては、2016年度より異文化体験と外国語運用能力向上のため、海外の大学や語学学校（ミュンヘン語学学校・北京語言大学・吉林大学等）での授業を文学部専門科目の単位として認定する、「海外特別演習」を開講している。（別添資料 6401-i4-5）[4.2]
- 実践的学習プログラムとして、部局間・大学間交流協定から語学研修旅行に至る幅広い海外留学のオプションを提示し、オリエンテーションなどの機会に留学を奨励している。第3期に海外留学・語学研修を行った文学部学生の総数は、第2期（182名）と比べて第3期（2016～2018年度までのデータ）には209名と大幅に増加している。[4.2]
- 実践的学習プログラムとして、2017年度より、特にアクティブ・ラーニングの要素を重視した授業科目「インタラクティブ講義」を開設し、学生の主体的な学びを涵養している。（別添資料 6401-i4-6）[4.2]
- 「就業体験実習（インターンシップ）」を選択科目として単位化し、積極的に学生の就業体験を促進している。受講者にとっては、実社会を知る貴重な体験となっており、社会的な知見を修得するとともに自らに適した職業を発見する機会として機能している。2017年度には5名が単位取得している。[4.2]

岡山大学文学部 教育活動の状況

- 教育実習も教職を目指す学生にとってキャリアに直結する実践的学習プログラム、インターンシップとして機能している。2017年度に教育実習の単位を取得した学生は中学校12名、高校8名の計20名である。[4.2]
- 情報通信技術（ICT）などの多様なメディアの活用については、岡山大学における学習支援システム（LMS）のMoodleへの移行（2017年度）に伴い、文学部においても多くの授業科目においてMoodleを利用して授業を行い、双方向的授業やアクティブ・ラーニングを推進している。[4.3]
- 教育・研究の指導体制、教員構成については、既述のように8分野に別れたきめ細かで一貫した少人数教育の体制をとっているが、指導教員制度についても2016年度から分野配属前の1年次においては人文学の基礎A担当教員を指導教員として設定し、2年次以降は所属分野の教員の内一人を指導教員として、1年次から卒業まで全学生がきめ細かな個人指導を受けることを可能にしている。[4.4]
- 教育・研究の指導体制の一環として、全教員にオフィスアワーを義務づけ、学生にあらかじめシラバスで告知しており、全学生が文学部全教員から個別にアドバイスを受けることを可能にしている。[4.4]
- 卒業論文指導の工夫としては、文学部における学習成果の集大成として、分野内の各領域教員による徹底した卒業研究指導を行う科目「課題演習」を開設しているが、従来の3年次3学期～4年次4学期の開講を、2016年度以降は3年次1学期～4年次4学期の開講に拡充し、より充実した論文指導が行えるようにしている。[4.5]
- 卒業論文指導の工夫として、さらに2017年度より優秀卒業論文賞を設立し、特に優秀な論文を選んで顕彰することにし、学生の卒論作成に対するモチベーションを高めるなど、効果的な卒業論文等指導を行っている。[4.5]
- 理論と実務の架橋を図る教育方法の工夫としては、資格取得やキャリア形成を目指して分野を超えて開講される「学芸員課程プログラム」では博物館における実務の体験や実践的知識の獲得、「外国語習得・留学プログラム」では海外での実践的な語学学習や異文化体験、「教育職員免許状取得課程」では教育実習を始めとする教職に向けての実践的な教育、そして2018年度より新設された「公認心理師試験受験資格課程」においては病院や施設での実習を始めとする心理職に向けての実践的な教育など、それぞれ卒業後の職業における実務遂行にダイレクトにつながる教育を行っている。[4.6]
- 理論と実務の架橋を図る教育方法の工夫として、フィールド科学系の分野では、「行動科学実験・調査演習」、「実践演習（社会調査 a, b）」、「実践演習

（地理学 a, b）」、「実践演習（地理学野外実験 a, b）」、「実践演習（心理学統計法 a, b）」、「実践演習（心理学 a, b）」などの授業科目において、社会調査士資格取得にもつながる社会調査の方法の習得やインタビュー調査・アンケート調査の方法論、また様々な職業において応用できる統計解析の手法も習得する。[4.6]

- 理論と実務の架橋を図る教育方法の工夫として、クラスター科目「専門知と職業」では様々な職業人を学外から講師として招き、大学での専門知を卒業後の人生や職業に結びつける様々な方法についてレクチャーやディスカッションを行っている。[4.6]
- 理論と実務の架橋を図る教育方法の工夫として、高年次教養科目では自身の専門分野及び異なる分野の〈人文知〉について社会的な課題との関わりをもとに考え、異なる分野が協働する意義を理解する授業を行っている。[4.6]
- 学習指導における学習成果の可視化については、Moodleにより各授業コースへのログイン回数・課題提出状況・評点・フィードバックなどが参照可能になっているため、学生が自分の学習状況の履歴をいつでも見るができるようにしている。[4.7]
- 多くの授業で毎回の小テスト・シャトルカード・コメントシート等により、各授業回の学習成果の可視化を実現している。[4.7]
- 2016年度より本学が実施している「高度実践人」及び「高度実践人（グローバル）」に、文学部からは両者併せて年平均26人、全学比率で年平均18.3%の学生が認定されている。これは全学部の中でも高い数値であるが、学生にとっては文学部における学習の総合的な成果が目に見える形になったものであり、学習成果の可視化となっている。[4.7]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 6401-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 6401-i5-2～4）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 6401-i5-5）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 6401-i5-6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

岡山大学文学部 教育活動の状況

- 学習支援の充実と学習意欲向上方策については、2016年度より文学部内の8つの分野のそれぞれにアカデミック・アドバイザー教員を置き、2年次から所属する分野の選択や各分野における教育内容・履修計画などについて、随時アドバイスを行っている。アカデミック・アドバイザー相談会を1・2年次において年2回開催し、専門教育の履修に関する指導や助言の他、学芸員課程プログラムや外国語習得・留学プログラムについての説明も行っている。[5.1]
- 学習支援の充実を図るため、毎年4月初旬には1年次生はもちろん2～3年次生にもオリエンテーションを行っているが、2016年度より1年次オリエンテーションにはアカデミック・アドバイザーも参加して各分野の教育内容や履修計画について説明することとなり、学習支援の一貫性を強化している。[5.1]
- 学習意欲向上方策の一環として2016年度より1年次生対象に年1回の研究室一斉訪問アワーを設け、学生が自由に各研究室を訪問し、教員や先輩と交流したり、リアルな研究環境に触れたりといった体験を可能にしている。[5.1]
- 学習意欲向上方策の一環として、『岡山大学文学部教員プロフィール』を2015年度に発行し、全教員が「研究者としての私」・「教育者としての私」・「印象に残る卒論」・「私が書いたもの」・「勧めたい本」について書いたものを収録しているが、2016年度より文学部HPに電子版を掲載している。

教員プロフィールは<http://www.let.okayama-u.ac.jp/people/>を参照。(教員一覧>分野>教員写真にマウスオーバー>READ MORE をクリックで表示される。)

[5.1]
- 学習支援の充実と学習意欲向上方策として、標準修得単位数を満たしていない学生に向けた特別な学習指導を、指導教員と学生生活委員会が連携して年2回行っている。[5.1]
- 学習支援の充実の一環として、学生生活委員会の編集により、学生支援に関する教員の業務についての詳細なマニュアル『文学部学生支援ガイド』を作成しているが、2019年度には大幅に改定した第3版を発行した。(別添資料 06401-i5-7) [5.1]
- 学習環境の整備としては、文学部が中心となり5部局共同で運営している学生・院生相談ルームで、専任のカウンセラーを置き、学習・学生生活・人間関係などの悩みを相談できるようにしている。開設は2010年であるが、近年利用者が大幅に増えた(2016年度の文学部学生(大学院生含む)の利用は延べ135件・2017年度は115件・2018年度は57件・2019年度(12月まで)は154件)ため、2019年度からは利用者の多い授業期間について、開室時間を週あたり1時間増やしている。[5.1]

- 履修指導における学習成果の可視化については、1年次（年2回）・2年次（年1回）・4年次（年1回）の学修計画書の提出を義務づけ、上記のアカデミック・アドバイザーによる履修指導の資料として役立てるとともに、年次ごとの学習目標の明確化とそれに即した履修プラン、また学習上の問題の発見、卒業後の進路への展望などが学生自身にとっても可視化されるようにしている。[5.2]
- 履修指導における学習成果の可視化をさらに推進するため 2017 年度からより詳細で厳密なルーブリックの策定を進めている。すでに一部の授業で試行的に実施している。これによって、学習における様々な要素を細分化してそれぞれに多段階の到達目標を設け、自分がどこまで達成できているかが学生自身にもわかりやすいように工夫している。（別添資料 6401-i5-8）[5.2]
- 履修指導における学習成果の可視化については、さらに Q-cum システムの活用によって、学生が自分の履修科目と DP との対応やバランスの取れた履修を行い、学士力を高めているか等について確認できるようにしている。[5.2]
- キャリア支援の取組については、3年次生向けに年2回就職説明会を開催しているほか、2016 年度からは年1回の内定者就活懇談会も新設し、民間・公務員・教員など様々な業種の内定を得た文学部4年生が後輩へのアドバイスを行う機会を設けているが、専門領域の近い同じ文学部の先輩の身近な就活体験が聞ける機会として好評である。[5.3]
- その他の取組として、本学部では、FD 委員会の主催で年1～2回、教員と学生との懇談会を開催している。この懇談会では、普段なかなか汲み上げることの難しい、大学や学部の教育・制度・環境などに対する学生からの率直な意見や要望を聴取し、教育、学習環境、学生生活の改善に役立てている。（別添資料 6401-i5-9）[5.0]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 6401-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 6401-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 6401-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学習成果の評価方法と成績評価の厳格化については、「岡山大学文学部成績評価基準」に従って、一回の試験またはレポート提出のみで成績評価を行わず、授業への

岡山大学文学部 教育活動の状況

取組・受講態度、報告・発表状況、レポート、試験など多様な要素を組み合わせて、総合的かつ厳格な成績評価を行っている。[6.1]

- 各授業科目の成績評価の方法や基準は、文学部 DP 及び CP に準拠して、シラバス（講義要覧）に明記し、各授業でも学習目標及び学習成果と関連付けて説明して、学生が事前に把握できるようにするとともに、評価の透明化を図っている。[6.1]
- 成績評価の際に、受講および受講のための学習準備を通じて得られた学修成果が、適切に反映されるような課題設定とその事前の周知を、シラバスや初回授業で行うことによって、成績評価における学修成果の可視化を推進している。[6.2]
- 2017 年度より、成績評価における学修成果の可視化をさらに推進するために、より詳細で厳密なルーブリックの策定とそれを元にした成績評価を進めており、すでに一部の授業で試行的に実施している。これにより学生が 4 年間の学修の積み上げの全行程の中で、現在どの段階まで到達しているのかを具体的に評価することが可能になる。（別添資料 6401-i5-8）（再掲）[6.2]
- 学生からの成績評価についての異議申し立ての制度については「文学部専門教育科目における成績評価異議申立に関する要項」を設けており、成績評価について、学生が異議申し立てを行う権利、また成績評価について適切な説明を受ける権利を明確にしている。[6.0]

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 6401-i7-1~2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 6401-i7-3~4）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業の判定体制・判定方法に関しては、「岡山大学文学部規程第 21 条」と「岡山大学文学部履修細則」に基づいて厳密に行われる。文学部教育委員会により 4 年次生以上の学生の卒業判定が行われ、その後の代議員会において厳密にその判定を確認している。その後、学部長の申出に基づき、学長が卒業を認定することになる。以上のように、卒業判定は、教育委員会及び教授会での審議、そして学長による認定と 3 段階を経た重層的な手順により、厳密公正に行われている。[7.1]
- 卒業論文の評価体制・評価方法について、卒業論文は文学部における学習成果

の集大成であり、その成績評価に関しては、いわゆる「出口管理」の強化のためにも極めて重要であるため、「岡山大学文学部評価基準」において特に定め、①論文としての形式を満たしているか、②必要な調査や実験、または文献の収集を行い、かつ適切な分析が行われているか、③論文のテーマ、目的、方法が明確であるか。また、論旨が明晰であり、言語表現が適切であるか、④口頭試問において質問に適切に答えられたか、という4項目の厳密な基準を立てている。[7.2]

- 実際の卒業論文の評価体制については、主査（指導教員）以外に副査を置き、必ず2名以上の体制で審査することとし、厳格かつ公正な評価を行っている。[7.2]
- 2017年度より卒業論文の成績評価における学修成果の可視化を推進するため、厳密な卒業論文ルーブリックの策定を進めており、すでに一部の領域で試行的に実施している。これによって文学部の学びの最終的な成果である卒業論文の評価を、学生が4年間の学修の積み上げの結果どのような能力を獲得して卒業してゆくかに具体的に結びつけ、明示することが可能となる。（別添資料 6401-i7-5）[7.2]
- その他、2018年度より卒業論文の単位を10から14に変更したが、これにより、導入教育から専門教育に至る一貫した学部教育の集大成である卒業論文の重要性をより明確にし、学生の主体的な学習意欲をより一層高めることを目指している。[7.0]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 6401-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 6401-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 多様な学生の入学促進・志願者増加方策・受入体制については、文学部アドミッションポリシーに即して、高校で履修した基礎的な知識を備え、課題を発見し解決していく意欲と能力をもち、論理的な思考とそれを的確に表現する力量を備えている志願者をより広く獲得するため、多角的な入試を行っている。[8.1]
- 多様な学生の入学促進・志願者増加方策・受入体制について具体的には、一般入試(前期日程、後期日程)2種に加え、帰国子女入試、私費外国人留学生特別入

岡山大学文学部 教育活動の状況

試、国際バカロレア入試、推薦入試 I (大学入試センター試験を課さないもの) 4 種を実施し、計 6 種の多様な学生の入学の促進と志願者増加に努めている。特に推薦入試では、単に知識を問う試験ではなく、調査書・推薦書・志望理由書・小論文・面接などにより総合的に判定を行い、学習意欲や本学部への適性を重視した入試を実施している。 [8.1]

- 適正な入学者確保については、オープンキャンパス・高校への講師派遣（出前講義）・高校生の大学訪問受入れ・高大連携科目への高校生受入れなどの努力により、直近の 4 年間における全体の志願倍率は 3.5 倍を超過しており、志願状況は良好である。2019 年度においては、全体で 3.59 倍、前期日程の志願倍率は 2.17 倍、後期日程については 8.17 倍となっており、比較的高水準の倍率を維持している。私費外国人留学生の志願者数も増加傾向にあり、全体として、岡山大学文学部へ入学を希望する志願者数は、増加傾向にあるといえる。 [8.2]
- 入学定員充足率についても、2016～2019 年度間の平均充足率が 105%を示しており、過不足なく適正な入学者数を確保している。 [8.2]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 6401-i4-3）（再掲）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- グローバル人材育成及びキャンパスの国際化に関しては、2016 年度より異文化体験と外国語運用能力向上のため、海外の大学や語学学校（ミュンヘン語学学校・北京語言大学・吉林大学等）での授業を文学部専門科目の単位として認定する、「海外特別演習」を開講している。（別添資料 6401-i4-5）（再掲） [A.1]
- グローバル人材育成については、部局間交流協定、大学間交流協定から語学研修旅行に至る幅広い海外留学のオプションを提示し、オリエンテーションなどの機会に留学を奨励している。海外留学・語学研修を行った文学部学生の総数は、第 2 期（182 名）と比べて第 3 期（2016～2018 年度までのデータ）には 209 名と大幅に増加している。 [A.1]
- キャンパスの国際化に関して、文学部で受入れている外国人留学生の総数は第 2 期（161 名）と比べて第 3 期には 169 名に増加している。第 2 期では岡山大学短期留学プログラム (EPOK) によって文学部に留学している留学生 64 名を文学部受入人数に含めてカウントしていたのを、第 3 期では外すことになったため、実

質的には大幅に増加していると推測される。[A. 1]

- キャンパスの国際化については、さらに、日本人学生による留学生向けチューター制度により、毎年数十名の文学部生が、留学生のチューターとして様々な国からの留学生の入学時の手続き補助や学内の案内、日本語習得や修学、学生生活の相談などを行うことで促進されている。[A. 1]
- グローバル人材育成については、フランス言語文化学領域においてフランスの大学から教育関連分野を専門とする大学院生を受け入れて雇用し、学部生向け授業の国際化を推進している他、日本人学生とフランス人留学生が協働作業を行う授業を企画し国際協働チームで働く力を涵養している。カフェ・フランス（学内施設 L-Café を利用）での留学生・ネイティブ教員との交流活動を企画している。（別添資料 6401-iA-1）[A. 1]
- グローバル人材育成の一環として、2017 年より特定の部局に属さない国際的な教育プログラムである、グローバル・ディスカバリー・プログラムが岡山大学に開設されたが、その所属学生が学部横断型の課題研究(マッチング・トラック)を行う際に、積極的に学生を受入れている。[A. 1]

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 地方自治体、外部組織・他大学などとの連携については、文学部日本史学領域の教員・学生が中心となって、岡山史料ネットを設立し、ボランティアを募り、予防的な活動も含め、史料の整理修復活動などを行っている。2018 年の西日本豪雨の際には、県内各地で古文書をはじめとした被災資料をレスキューした。この活動は大学の属する地域に対する貢献であることはもちろん、学生にとっては地域連携に基づいた実践的教育としても極めて効果的である。（別添資料 6401-iB-1）[B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 教員評価としては文学部では年に一度詳細な教員活動評価を実施している。教

岡山大学文学部 教育活動の状況

員の自己評価書に基づき、教育・研究・社会貢献・管理運営の4項目にわたって4段階の評価を行い、その結果を本人に通知して教育改善に役立てるとともに教員の給与査定に反映している。[C.1]

- 教育改善については、毎年または隔年で「学生のメンタルヘルス」「学生の就職活動の現状」「ハラスメント防止」「教職課程」「コンプライアンス」等についての文学部教員研修会を開催し、教育の改善に役立てている。[C.1]
- FD委員会の主催で年1～2回、教員・学生懇談会を開催している。この懇談会では、教員と学生の代表が懇談し、普段なかなか組み上げることの難しい、大学や学部の教育・制度・環境などに対する学生からの率直な意見や要望を聴取して、教育改善の取組を行っているほか、学習環境、学生生活の改善に役立てている。[C.1]
- FD委員会の主催で文学部の導入教育及び学生指導体制において重要な科目である「人文学の基礎 A」について、毎年度末に担当者が集まり反省会を開催し、次年度以降の授業改善に役立てている。[C.1]
- 教育改善の取組の一つとして、授業評価アンケートで上位の評価を得ている授業から選抜して、公開授業を行い、希望する教員が聴講できるようにしている。聴講した教員は授業後にピアレビューを作成し、それを全教員に共有することで、学部の授業改善に役立てている。[C.1]
- 外部評価に関して文学部では2019年12月26日に民間企業・高等学校・他大学の3つの分野から外部委員を迎え、岡山大学文学部文学教育外部評価委員会を開催した。事前送付された資料と当日の口頭説明に基づき、本学部の教育について様々な角度から審議が行われたが、教育活動の状況とその成果について、長所のアピール不足、きめ細かな教育と世界規模の研究との両立、教員減員の補填など、今後の課題もいくつか指摘されたものの、幅広い教育内容及び丁寧な学生教育・指導体制が高く評価され、総合的には「B（概ね良い）」とする評価が得られた。（別添資料6401-iC-1）[C.2]

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料6401-iD-1）
- ・ 指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

岡山大学文学部 教育活動の状況

- 人文学の成果を大学に留めるだけでなく広く社会に普及し、広い意味でリカレント教育や生涯学習に貢献するために、一般市民に開かれた公開講座、講演会、シンポジウムといった多くのアウトリーチ活動を実施している。2017年度には公開講座3件、講演会19件、（うちワークショップ・シンポジウム5件）を開催した。2018年度には公開講座2件、講演会19件、シンポジウム3件を開催した。

[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 6401-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 6401-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 単位取得・成績状況に関して、分析項目Ⅰの6で述べたように、本学部では、授業の形態に応じて多様な方法を組み合わせて成績評価を行っている。成績の評価割合についても、文学部全教員の平均は、概ね、「A+(90点以上)が30%程度、A(80点以上)が40%程度、B(70点以上)が15%程度」であり、本学部の教育体制及び多様な学習支援が望ましい効果を上げていると考えられる。[1.1]
- 学位授与の状況に関して、本学部ではおおむね85%の学生が基準年限で卒業しており、留年率は概ね15%程度である。これは全学の平均卒業率とほぼ同様の値を示している。ここ数年、前述のように、長期にわたり留学する学生も増加し、それに伴い留年する学生も少なくない。こうした状況にありながらも、概ね9割以上の学生が標準修業年限の1.5倍の期間内において卒業している。[1.1]
- 資格取得状況に関して、まず、本学部の教員免許取得者数と教員就職者数の現況については次の通りである。ここ数年は20名前後の学生が教員免許状を取得しており、教員就職者も10名前後を推移している。なかでも、ここ数年は教員就職率が上昇しており、平成30年においては、22名の免許状取得者数のうち50%にあたる11名が教員として職を得た。また、本学部は学芸員資格取得のための課程を有しているが、学芸員資格取得者は毎年30名前後を数え、2018年度においては35名に至った。[1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 就職・進学率、就職先の特徴に関しては、本学部の卒業生の進路は、国及び自治体の公務員、民間企業就職者と進学者に大別でき、就職率も非常に高く、2016-2018年度も常に90%以上を維持している。[2.1]

- 近年は公務員の比率が高くなってきており、2018年度については公務員が全体の42%、民間企業が51%、教員が7%である。人文学における幅広い教養と学際的な視野を養う文学部の教育成果として、教養あるジェネラリストとして多様な課題に柔軟に対応できる人材を養成した結果、就職先業種も多岐にわたり、卒業生の就職先は多様である。また、大学院等へ進学する卒業生は2016年度21人、2017年度11人、2018年度13人となっている。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 6401-iiA-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 「卒業時の学生へのアンケート結果」に基づく特記すべき教育成果に関しては、平成30年度卒業生のアンケート調査結果より、卒業生の文学部の教育への満足度は非常に高いことが理解できる。「大学教育全般についての満足度(文学部分)」をみると、「非常に満足」～「やや満足」の合計割合は、87.7%にのぼる。また、「大学の個々の領域についての満足度」のなかで、とくに「専門科目」と「卒業研究・ゼミの指導」の項目の満足度が高く、全学の満足度を上回っている。文学部の専門教育の体制、特に少人数制に基づいて丁寧な学習指導を行っている点についての評価が高いことがうかがえる。[A.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 6401-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2019年度に過去5年間の卒業生・大学院修了生の主な就職先に対して行ったアンケートの集計結果によれば、岡山大学卒業生・大学院修了生の資質・能力は、大部分の項目で7割を超える就職先から「高く評価される」または「どちらか」と評価できるとされている。特に問7-3「物事を論理的に考える力」は84.7%、問7-4「情報を収集・分析し効果的に活用する力」は77.7%、問7-11「協調性」は81%と高い数値が示されている。学部別のアンケートを行って

岡山大学文学部 教育成果の状況

ないために推測にとどまるものの、論理力や情報力を重視し、少人数での丁寧な教育を中心とする文学部の専門教育もこのような人材を育成するのに貢献していると考えられる。

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 〇部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。